

奨励賞を受賞して

同志社大学理工学部助教・北岸 宏亮

このたびはシクロデキストリン学会奨励賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。改めまして学会長の谷本敏子先生および副会長の池田幸先生をはじめ、選考委員ならびに関連の諸先生に心より御礼申し上げます。また恩師であり本賞へのご推薦をいただきました加納航治先生には感謝してもしきれません。私は今から12年前、大学4年生のときに加納先生の研究室に配属になり、シクロデキストリン (CD) の研究を開始しました。以後、他大学に籍を置く期間を挟みつつも、卒論研究 (1年)、博士論文研究 (3年)、そして母校である同志社大学に奉職して以来4年と計8年間 CD の研究にたずさわってきました。受賞対象となりました「メチル化 CD-ポルフィリン超分子錯体によるヘムタンパク質機能モデル」は、博士課程から取り組んできた研究テーマです。本研究ではメチル化 CD の強い包接によって水中から疎水場に隔離された鉄ポルフィリンが天然のヘムタンパク質、特にミオグロビンと数々の共通する性質を示すことに着目し、修飾 CD ダイマーを用いることによって水中でミオグロビンと同様に安定に酸素を付加するモデル化合物を開発しました。ポルフィリン研究の大家であります J. P. Collman や J. T. Groves といった先人達がなし得なかった水中で機能するミオグロビンモデルを自らの手で達成したときの興奮は生涯忘れられません。実はメチル化 CD と水溶性ポルフィリンの包接錯体については私が4年生のときにすでに先輩の西藪隆平博士 (現首都大学東京) がかなり詳細に研究しておられました。そしてその続きの研究テーマとして鉄ポルフィリンを用いる課題が私に与えられました。したがって本成果はテーマの巡り合わせによるところが大きく、決して自分の実力で今回の賞を頂いたものではないと自戒しております。今後この度の受賞に報いるためにも本研究をさらに発展させ、社会に大きく貢献できるような成果の発信を心がけることが使命であると考えています。我々の目指すところは鉄ポルフィリン-メチル化 CD 包接錯体によるヒトの血管内で機能する人工酸素運搬体の実現です。CD 学会の諸先生には今後とも何卒御指導のほどよろしくお願い申し上げます。